次世代人工知能・ロボットの中核となるインテグレート技術開発事業

産業技術環境局産業技術プロジェクト推進室
製造産業局自動車課
製造産業局産業機械課

令和５年度予算額　　11　億円（　14　億円　）

事業の内容

事業目的

これまで開発が進められてきたAIモジュールやロボット技術等を活用・インテグレートして、従来の人による管理では達成できない更なる省エネ効果を得ることで安定的かつ適切なエネルギー需給構造を構築するとともに、AI技術の社会実装を加速し、それによりもたらされる新たな市場シェアを他に先行し、いち早く獲得することを目的とします。

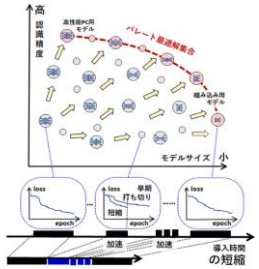
事業概要

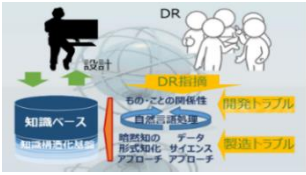
「生産性」「空間の移動」分野において、AI技術の実証、導入推進、基盤技術開発を行い、エネルギー需給の高度化に貢献する（１）（２）の取組と、ものづくり現場に蓄積されてきた「熟練者の技・暗黙知」の伝承・効率的活用を支えるAI技術を開発し、生産性向上による省エネ化を実現する（３）の取組を行います。※（１）AI技術の社会実装に向けたアジャイル型研究開発・実証は令和４年度終了
（２）導入加速化基盤技術開発：AI技術を適用させる業務分析、データ整備、AIモジュール開発における学習等を加速させる基盤技術を開発し、AI技術を現場導入する期間を短縮する。成果普及および機能向上の目的でアワードを実施します。※1テーマは令和４年度終了
（３）ものづくり現場のAI：ものづくり現場において、人の判断を支援するAI技術の活用により、設計、加工等の工程における生産性向上を目指します。

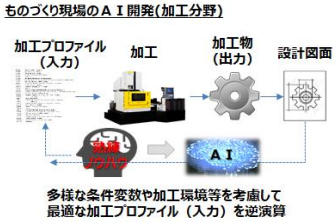
事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）

（１）（２）（３）ともに事業スキームは以下のとおり。

国 → 交付 → 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) → 委託 → 民間企業、研究機関、大学等







成果目標

平成30年度から令和5年度までの6年間の事業であり、最終的には、本プロジェクト（１）（２）（３）で開発されたAI技術が、「生産性」「空間の移動」等の各分野で導入され改善することにより、令和12年時点で、CO2排出量を年間約676万トン削減することを目指します。